令和４年７月１日

各　位

山形市野草園　：　山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ（7月号）

1　2

3　4

夏空に木陰を歩く　梅雨空に傘を片手に歩く　また楽し

1	森に咲くヤマユリ　百合の女王　その大きさと芳香に驚く	（７月中旬～下旬）
2	雪国に育つエゾアジサイ　豪雪に耐えるしなやかさをもつ	（６月下旬～７月中旬）
3	花弁が捻れ　巴のように見えるトモエソウ　絶滅危惧種	（７月中旬～下旬）
4	高山に咲くクルマユリ　小振りながらも凛として美しい	（７月下旬～８月上旬）

野草園はすっかり夏の装い。太陽の光を求めて、木々は葉を広げ枝を伸ばしています。この季節に咲く花々は、蕾を付け開花の準備を進めています。

夏日になるような暑い日は木陰を歩き木漏れ日の中の花を探し、しとしとと雨が降る日は傘をさして雫を付けた花を探す、自然の中でそんな楽しみ方をしてみませんか。写真に収めた風景や花の姿は、その花に出会ったときの自分の心までとどめてくれます。もう一度その時の写真を見たときによみがえる記憶と感情、決して色褪せることはありません。

暑いからといって、今日は雨だからといって、家の中にこもってばかりいないで、自然の中に出かけてみましょう。きっと素敵なひとコマに出会えるはずです。さあ野草園に出かけましょう。

７月の予定

◆山形市制133周年記念　施設無料開放　　7月3日（日）　〈大人・子ども共に入場無料〉

◆開園時間短縮・ホタル観察会中止

〇開園時間　　午前９時～午後４時３０分（入園は午後４時まで）

６月から８月までの間は午後６時までの開園時間となっていますが、クマ侵入に備えた来園者の安全確保のため、春と秋同様午後４時３０分までと致します。それに伴い、今年のホタル観察会も中止と致します。

◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

〇期　間　野草園開園期間　４／１（金）～１１／３０（水）

〇内　容　専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、１回の来園で５００ポイント付与（１日１回まで）　《詳細は「山形市　健康ポイント　スクスク」で検索》

◆ガイドウォーキング

〇実施日　　毎週日曜日・祝日　１日２回実施

〇時　間　　①　午前１０時３０分～午前１１時３０分　　②　午後１時３０分～午後２時３０分

〇内　容　　その日の見頃の植物を案内

〇費　用　　参加費無料　《ただし入園料３００円（高校生以下無料）》

◆庭木の剪定教室

〇日　時　　７／２（土）　午前９：３０～１１：３０

〇内　容　　今年伸びた枝の剪定方法と樹形を整える方法を学習

〇対　象　　先着 20 人　（すでに定員になり申し込みは締め切っています）

〇場　所　　野草園内　　〇持ち物　　剪定ばさみ

〇参加費　　資料代・入園料込４００円（高校生以下１００円）

◆テラリウム教室

〇日　時　　７／１８（月・祝）　午前１０：００～１１：００

〇内　容　　ガラス容器にコケ・植物・小さなオブジェなどを配置して自分だけの風景を作る

〇講　師　　風の呼　佐藤絵理子　氏　　〇場　所　　自然学習センターピロティ

〇対　象　　先着１３人　〇参加費　　材料代・入園料込2,３００円（高校生以下2,０００円）

〇申込み　　７／１（金）より　電話で野草園まで　TEL０２３－６３４－４１２０

◆虫とりに行こう（雨天中止）

〇日　時　　７／２３日（土）・２４日（日）　午前１０：００～正午

〇講　師　　自然写真家　永幡 嘉之 氏

〇内　容　　夏の森でさまざまな虫たちを探す　　〇場　所　　野草園内

〇対　象　　小学生とその保護者　各日先着１０組２０人

〇参加費　　入園料３００円（小学生無料）

〇申込み　　７／１（金）より　電話で野草園まで　TEL０２３－６３４－４１２０

◆昆虫標本教室

〇日　時　　７月２４日（日）　午前１０：００～１１：００
〇講　師　　カブトムシ生産者　千葉和人　氏
〇内　容　　保存液に漬けたカブトムシのオス・メスを専用ケースに配置
〇対　象　　小学生とその保護者　先着１５組３０人　　〇場　所　　自然学習センターピロティ
〇参加費　　材料代・入園料込　１組2,３００円
〇申込み　　７／１５（金）より　電話で野草園まで　TEL０２３－６３４－４１２０

◆木工工作教室

〇日　時　　７／３０（土）、８／１１（木・祝）　午前９時３０分～正午
〇講　師　　竹内敏夫　氏　　大澤哲夫　氏
〇内　容　　野草園の木の枝や道具を使って自由に工作　〇場　所　　自然学習センターピロティ周辺
〇対　象　　小学生とその保護者　各日先着８組１６人
〇参加費　　材料代・入園料込　１組３００円
〇申込み　　７／１５（金）より　電話で野草園まで　TEL０２３－６３４－４１２０

◆絶滅危惧植物パネル展

〇日　時　　７／１６（土）～８／１１（木・祝）　午前９時～午後４時３０分
〇内　容　　絶滅危惧植物の紹介、パネルの展示
〇場　所　　自然学習センター　　〇入園料　　大人３００円（高校生以下無料）

◆カフェの営業・山野草販売　（自然学習センターで販売）

〇カフェやまぼうし　　《臨時休業　７／３（日）、２４日（日）》
《営業》木曜・土曜・日曜・祝日　　午前１０：３０～午後２：３０
《メニュー》カレー、ピザトースト、サンドイッチ、バナナシェイク、コーヒー
〇山野草販売
《営業》土曜・日曜・祝日に販売予定（平日販売の場合もあり・夏の期間休業あり）

◆開花した花等の紹介

〇野草園のホームページから観察日記・インスタグラムをご覧ください。
園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。
〇ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物を検索できます。
検索できる植物を少しずつ増やしていく予定です。

▲野草園観察日記▲

７月の風景

●●● 7月に見られる主な花 ●●

エゾアジサイ（アジサイ科）

北海道と本州日本海側の山地の斜面や沢沿いに生える日本固有種です。両生花の周りの装飾花の色合いが、コバルトブルーでとても美しく見えます。葉の縁に粗い鋸歯があります。ガクアジサイと似ていますが、葉に光沢がなく薄手です。見て、触って確認してみましょう。

ガクアジサイ（アジサイ科）

房総半島・三浦半島・伊豆半島などに生える背丈２m程の落葉低木です。葉は長卵形で厚く、茎先に大形の花序を付けます。中心部に小さい青色の両性花が密集します。周りは萼片が変化した４枚の白い装飾花で、それが額縁のように見えることが名前の由来です。

アジサイ（アジサイ科）　《別名：ホンアジサイ》

アジサイという名前はアジサイ属の一部の総称とされ、他と区別するために「ホンアジサイ」と呼ばれることがあります。たくさんの花の集まりは、手毬咲きと呼ばれます。ひとつひとつの花は雄しべや雌しべのない装飾花で、ガクアジサイの突然変異種です。装飾花だけで種ができないので挿し木で増やします。

ノハナショウブ(アヤメ科)

湿地に生える多年草です。名前の由来は、野生のハナショウブという意味（野花菖蒲）で、全てのハナショウブの原種になっています。葉の幅が狭く、葉の中央にある葉脈が太くはっきりして筋になっていることや、外花被片の線が黄色いことでカキツバタと区別することができます。

トビシマカンゾウ（ワスレグサ科）

飛島・男鹿半島・佐渡島の海の近くに生える、草丈が１～２mの多年草です。ひとあし先に開花したニッコウキスゲを一回り大きくした感じです。花は１日花で、黄橙色の６弁花を茎先に 10 個程次々に咲かせます。酒田市のシンボルの花がトビシマカンゾウです。

オゼコウホネ(スイレン科)

高山や北地の池沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を１個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。コウホネとは雌しべの柱頭盤が赤いことで区別することができます。

スイレン(スイレン科)

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込み、花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名前は、「朝に花が開いて夜に閉じる」睡る蓮ということに由来します。

ヒツジグサ（スイレン科）

湖沼に見られる多年生水草です。卵円形で光沢がある緑色の葉を水上に浮かべて、細長い花柄の先に白い花を開きます。萼片は４枚で緑色、花弁は白色で８～１５枚あり、長さは萼片とほぼ同じで、黄色い雄しべの葯が目立ちます。名前は未草（ヒツジグサ）で、未の刻（午後２時）頃に開くことに由来します。夕方には花を閉じてしまいます。

スモークツリー(ウルシ科)

初夏に花を咲かせる雌雄異株の落葉樹木で、ヨーロッパから中国にかけて分布します。小さな淡緑色の花を穂状にたくさん咲かせ、雌株の花後にタネを結ばない花（不稔花）の軸の部分が長く伸びて羽毛のようになります。花穂の見た目がもふもふした感じになり、離れてみると煙のように見えます。

ヤナギラン(アカバナ科)

花が美しい蘭に、葉が柳に似ていることが名前の由来です。山地の日当たりのよいところに生える多年草で、山野が工事跡などで荒れると進出し、木が茂ると姿を消す先駆植物です。茎の先に多数の紅紫色の花を開き、下から上へ咲き上がります。夏の終わり頃には、白い綿毛を穂全体からいっぱいに出します。その時の様子もまた見事です。

オカトラノオ（サクラソウ科）

山地や丘陵などの日当たりの良い草地に生える多年草で、茎は直立し分岐しません。茎の先に一方に傾いた総状花序をつくり、多数の白い花を密につけ下から咲いていきます。名前は、花序の様子を虎の尻尾に見立てたことに由来します。

ヤマユリ(ユリ科)

山地に生える日本固有種のユリです。高さ１～1.5mの茎は直立しますが、大輪の花の重みで少し倒れてしまうものが多いようです。茎先に数個咲く花は径 20 ㎝を超え、強い芳香があります。白い花弁の内側には赤い小点がたくさんあります。その姿は豪華で華麗、まさに「ユリの女王」です。

オニユリ(ユリ科)

茎の頂に、径１０～１２㎝の朱色の花を数個つけます。花被片は、赤橙色で暗紫色の斑点が多数あり、強く反り返ります。長い雄しべと葯の紫色も目立ちますが、それ以上に葉の基部に付くムカゴ（零余子）が目立ち、他のものと見分ける大きな特徴になっています。花の色が鬼を思わせることが名前の由来です。

コオニユリ(ユリ科)

日当たりの良い湿り気のある山地に生える多年草です。葉は線状披針形で、葉のわきにオニユリのようにムカゴはつきません。茎の先端に黄赤色の花をつけますが、花の数はオニユリよりも少なく形も少し小さいです。花弁は６個、上部はそり返り内側には紫黒色の小点がまばらにあります。オニユリよりも小さいことが名前の由来です。

クルマユリ（ユリ科）

本州中部以北の亜高山帯の草原に生える多年草です。葉は茎の中央部付近に６～１５枚が輪生し、その上部に３～４枚がまばらにつきます。茎の先に黄赤色の花をつけ、花は下を向きます。花弁はせまい披針形で広く基部から開いてそり返ります。葉が放射状についている様子を車輪にたとえたことが名前の由来です。

アカバナシモツケ(バラ科)

茎の先に、小さな紅色の花をたくさんつける多年草です。ひとつひとつの小花からは、多くの雄しべが長く伸びて、全体的にふわっとした感じに見えます。葉は５つから７つに深く裂け、また、鋸歯があるので、モミジの葉のような印象です。接写で撮影することがおすすめです。

ホタルブクロ(キキョウ科)

チョウチンバナ、ツリガネソウ、ホタルグサなどいろいろな方言での呼び名があります。茎の上に大きな鐘形の花をつけますが、袋状の花の中にホタルを入れて遊んだことが名前の由来といわれています。萼片のところにそり返った附属体があります。そり返らないのは“ヤマホタルブクロ”です。

ウツボグサ(シソ科)

日本各地の山野の草地に普通に見られる多年草です。うつぼ（靫）とは、その昔、武士が矢を入れて背負った武具のことです。この植物の花穂がそれに似ていることが名前の由来です。夏の盛りには枯れてしまい、茶色くかさかさの状態になります。そんな様子から、“夏枯草（かこそう）とも呼ばれています。枯れた姿も印象的です。

ウリノキ(ミズキ科)

葉の形がウリの葉に似ていることが名前の由来といわれています。美しい白い花弁は外側に巻き込み、その真ん中の黄色い雄しべと白い雌しべが綺麗です。花後、果実は藍色に熟します。花と果実、両方の美しさを楽しむことのできるウリノキです。

ネムノキ（マメ科）

山地や原野、川岸などに生える落葉高木です。夜になると小葉が眠るように閉じます。枝先に１０～２０個の紅色の花を散形状につけます。花は花弁が合体し、上部だけが５片に分かれ、淡紅色のたくさんの長い雄しべが目立ちます。雌しべは白色の糸状で雄しべより少し長いようです。

カワラナデシコ（ナデシコ科）

　各地の山野に自生する多年生草本です。葉は対生し、線形または披針形で、基部は茎を少し抱きます。花茎の先に咲く淡紅紫色の花は、花弁の先が細かく裂けとても優美に見えます。秋の七草のひとつに数えられていますが、７月には咲き始めます。河原に生える可憐な花の様子が名前の由来です。

キキョウ（キキョウ科）

　日当たりのよい山地や野原などに生える多年草です。根は太く黄白色をしており薬用とされています。葉は長卵形で先は尖り、縁には鋸歯があります。茎の上部に青紫色の鐘形５裂の花を開きます。秋の七草でいうアサガオはキキョウのことだといわれています。

キンコウカ(キンコウカ科)

　山地帯～高山帯の湿地や湿原に生える多年草で、群生して咲きます。葉は中脈から折りたたまれています。花茎は高さ２０～４０ｃｍで総状に多数の黄色い花をつけます。開花すると雄しべの花糸に縮れ毛が密生します。花後、花被片は緑色になります。花色が名前の由来で、「金光花（キンコウカ）」とつけられたようです。

クガイソウ（オオバコ科）

　山地の日当たりのよい草地に生える多年草です。葉は長楕円状披針形で、４～８枚が輪生して数層となります。茎の頂きに穂のような長い総状花序をだし、多数の花を開きます。青紫色の花は、下の方から順次上の方に咲いていきます。名の由来は多層に輪生する葉の様子からつけられたようです。

リョウブ（リョウブ科）

　山林の中に生える落葉の小高木で、樹皮は薄片となってはがれ、残りは茶褐色でなめらかです。葉は枝先に集まって互生し広い倒披針形です。枝先に小さな白い花を密につけます。木肌がきれいなので、薄片をつけたまま床柱として使われました。昔、若い葉を保存しておき、救援食物としても使われたようです。